

精密総合健診(人間ドック)

動 向

平成20年度の人間ドック受診者数は、昨年度より598名減の10,590名(男性6,321名、女性4,269名)で、平成12年から微増傾向が続いていたが減少に転じた。減少の最大の要因は、後期高齢者医療制度の導入に伴い、市区町村が人間ドック補助事業を廃止したことによる。組合管掌健康保険などの職域保険においては人間ドック事業の縮小・廃止の動きはほとんどなかったが、次年度以降の動向を注視する必要がある。

平成20年度から始まった「特定健診・特定保健指導」にも対応できるように、問診票や結果報告等を変更するとともに、受診当日に検査結果の説明および階層化に基づく特定保健指導の初回面接が実施できる体制を整えた。受診当日の動機付け支援初回面接の実施人数は、平成20年度は60名であった。その他、従来の保健指導や事後フォローも専任コーディネーターが行っているが、その実施数は保健相談の項に掲載している。

方法と結果

年度別受診状況をみると、平成20年度は男女とも受診者数が減少に転じ、特に女性受診者の割合が減った(表1)。

受診前歴(表2)では男女とも継続受診が多く、健診の有用性を向上させる上では、継続受診率を上げることは重要である。

総合判定区分内訳(表3)をみると、「異常なし」、「心配なし」を合わせても男性0.9%、女性2.5%とわずかである。「要観察」は男性8.5%、女性20.1%と例年と変化は見られない。治療中も含めさらに検査や受診が必要な再検以上の区分の受診者は男性64.6%、女性52.4%であった。

がんの新規発見を臓器別にみると(表4)、がん発見率が最も高かったのは前立腺がんで、平成19年度に引き続きP S A検診から8名(0.37%)が発見された。うち7名が50~60歳代の若年層であった。P S Aによる前立腺がん検診の実施数は40歳以上の各年代で平成19年度より増加し過去最高で、男性受診者6321名中2141名(33.9%)が受診した。特に50歳代から70歳代の40%以上が受診し、前立腺がんのスクリーニング検査としての認知度が高まったと考えられる。(表5)。その他胃がん5名、ヘリカルCTによる肺がん2名を含め、全体としては新規のがん発見は受診者の0.21%で例年どおりであった。最終の確定診断の集計が困難なものもあり、特に大腸が

んに関しては、便潜血陽性者のフォローが不十分のため次回ドック受診時まで把握できないケースが相当数あると思われる。

主な有所見率(表6)、検査データ平均値(表10)を見ると、平成19年度から測定を始めた腹囲では、平成20年度は平均で1cm減少した。腹囲をベースにおいた特定保健指導が始まったことも関係して、メタボリック症候群および腹囲への関心度が高まった可能性は十分考えられる。血液学的検査では、白血球数は男性がやや多く加齢とともに減少傾向がみられる。これは白血球数が喫煙の影響を受け、若年者に喫煙率が高いためと考えられる。赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリットは男性で加齢とともに減っていくが、女性では50歳代で反転増加する。脂質異常は男性52.1%、女性37.8%と非常に高く、男性は40・50歳代の中性脂肪が高く、女性は50歳代以降LDLコレステロールが増加する。男性では飲酒、女性ではホルモン変化が関与していると考えられる。糖代謝異常については、男女とも加齢とともに増加傾向があり、有所見率は男性が女性の2倍以上である。血圧に関しては年齢とともに上昇し、各年代で男性が高い傾向にあるが、女性の場合閉経期以後血圧の上昇が大きいため、加齢とともに男女差は小さくなる。また、診療時の血圧よりも家庭血圧(早朝・就寝前血圧)や夜間血圧のレベルが脳心血管事故に重要な因子とされている。健診時に家庭血圧の測定の重要性を啓蒙する必要があると思われる。肝機能障害は男性に多く、若年ほどASTよりALTが高く(女性は逆)、 γ -GTPは2倍程度高い。特に40・50歳代の男性で γ -GTPが高く、アルコールの影響のみならず内臓脂肪型肥満に伴う脂肪肝が多いためと考えられる。働き盛りの生活習慣の問題が浮き彫りにされている。

胸部X線・CT異常は昨年と同じ傾向であり、レントゲン上の心拡大の頻度も変化がない(表7)。安静時心電図所見の内訳は例年と同様である(表8)。腹部超音波所見(表9)、胃部X線所見にも特に変化はない。

「特定健診・特定保健指導」が平成20年4月から始まり、ドック当日の初回面接実施数が増えている。継続受診者が多いため、今後経年データでもその効果を評価することが可能と考えられる。また、人間ドックの両輪の一つであるがん検診についてもさらに検診実施率、精検受診率を向上するために、フォロー体制を強化していきたい。

関係の集計表は121頁に掲載